

## 論文

# 幼児のための身近なメディア情報の活用方法とその評価・課題について Vol.2 —2 歳児の保育を通して—

野 崎 真 琴  
鈴 木 恒 一

## I. はじめに

現代社会では、ICT (Information and Communication Technology : 情報通信技術) の高度化が進み、その影響は社会のあらゆる分野に及んでいる。このような状況は、教育、保育の分野でも同様である。保育所保育指針、幼稚園教育要領等には子どもたちの生きる力の基礎を培うために、様々な情報の活用や、これを活動に役立てる力などの育成が示されている。また、保育者養成機関に対しても、文部科学省が取り纏めた「教職課程コアカリキュラム」では、保育・教育の現場における情報機器及び教材の活用が求められていることが明示されている。

筆者らは、乳幼児を対象とした保育においては、子どもにとってあくまでも直接体験が最重要であるという前提のもと、情報化の流れは避けられない時代状況下で、身近なメディア情報を活用した保育教材 (以下 メディア教材) が保育において有効であるかどうか、その有効性の範囲を探るため、保育における身近なメディア情報の活用方法とその保育における活用の効果と課題について、実際の保育現場の協力を得て、3～5 歳児の保育を対象とし調査研究に取り組んだ。その結果、保育においてメディア教材を活用することにより、保育の多様な展開が可能になることや保育者が子どもの反応や映像を見ながら柔軟でスムーズな保育を展開することができるなど、様々な効果があることを示すことができた。また同時にメディア教材の準備や活用における課題や保育者自身が抱える問題点なども明らかになった。

そこで、本研究では、このような 3～5 歳児の保育を対象とした調査研究で把握された保育におけるメディア教材活用の効果や課題を踏まえ、今回対象児年齢を繰り下げ、2 歳児を対象とした保育におけるメディア教材の活用方法とその評価について、実際に保育を実施する際の活用方法及び期待できる活用の効果、またメディア教材及びその活用における課題について、子どもそして保育者の姿を通して検証し、明らかにすることを目的とする。またその際、先に行った 3～5 歳児を対象とした保育との比較的視点も持ちながらの考察を試みる。

## II. 研究の方法

### 1. 調査の対象及び時期

- \* 調査対象園 愛知県・三重県内保育所及び認定こども園 8 園
- \* 調査対象 2 歳児約 150 名、保育者 (パート保育士含む) 30 名、園長・副園長等 9 名
- \* 調査時期 2021 (令和 3) 年 8 月～12 月

## 2. 調査及び分析の方法

メディア教材の活用方法については、メディア教材を活用した保育の指導計画を担任保育者が作成、実践し、その実践の様子をビデオカメラにより撮影する。その撮影記録と指導計画を基に、保育の展開方法に注目しメディア教材の活用方法について分析した。

メディア教材の評価については、研究保育実施後、保育者に対するアンケート調査を実施し、研究内容に該当する調査項目の結果からメディア教材の効果について分析した。さらに、この研究保育を観察した園長先生及び副園長先生にも、同じ内容のアンケート調査を実施、同質問項目の結果から分析した。

さらに、メディア教材の評価については、研究保育終了後、メディア教材に対する子どもたちの声をICレコーダにより収録を試みたが、サンプル数が非常に少なかったため断念した。

メディア教材及びその活用に向けての課題については、担任保育者及び園長先生・副園長等に対する先と同じアンケート調査の該当項目の結果について分析を行った。

なお、以上のアンケート結果の内、自由記述の分析については、G T A (Grounded Theory Approach) により行った。

## 3. メディア教材の概要

メディア教材は、各調査対象園の2歳児担任保育者と事前にそのねらい及び内容の打ち合わせを行い、これに基づき筆者らが作成した。そしてこれを活用し保育を展開する。なお、展開方法については自由とした。

メディア教材作成に際しては、作成が容易であることを念頭に置いて、以下に限定して行った。

- \*現在一般的に社会で活用されているプレゼンテーションソフト“パワーポイント”のみを使用する。
- \*メディア教材に活用した写真、イラスト等は、インターネットに表示された写真やイラストをコピー、絵本についてはイラストをスキャンして活用する。
- \*写真、イラスト等は、調査対象児の身近にある環境(事物)を中心に使用する。

なおメディア教材の作成に際しては、著作権に抵触する恐れについて事前に弁護士に相談したが、明確な回答は得られなかった。本研究では、あくまでも保育・教育のために活用することを目的としメディア教材を作成、使用した。

## 4. 保育時使用機材について

研究保育時に使用した機材は以下の通りである。なお、セッティング及び撤収は、研究チームが行った。

パーソナルコンピュータ プロジェクタ 移動式スクリーン (50in) レーザーポインタ ICレコーダ

## 5. 倫理的配慮について

調査対象園に対しては、研究目的、調査内容・方法などについて各園園長に対し、書面により説明し同意を得た。子どもの保護者に対しては、本研究についての説明書を配布し、本研究に対する問い合わせには研究者の連絡先を明記し直接これに答えることとした。また映像記録や音声記録については、個人の特定ができないよう、十分配慮して記録・分析を実施した。

### Ⅲ. 結果及び考察

#### 1. メディア教材の活用方法

研究対象園 8 園において実施したメディア教材を活用した研究保育計 13 件について、それぞれの指導計画と実践の撮影記録を基に、メディア教材の活用方法について分析した結果、5つのパターンに分類することができた。3～5 歳児を対象とした研究保育で確認されたパターンⅠ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴに加え、新たにパターンⅥを確認した。(図 1) 全 13 件の研究保育がそれぞれどのパターンに分類されるかは表 1 に示す。

表 1 研究保育実施内容及びメディア教材活用分類

No.	実施日	園名	クラス	保育者数	メディア教材名	活用分類
1	2021. 8.3	ア保育園	2歳児	4	Part37 やさいがいっぱい!! (Phot) 2歳児用	Ⅳ・Ⅴ
2	2021. 8.23	イ保育園	2歳児	2	Part32 ふる一ついっばあ〜い	Ⅴ
3	2021. 9.21			1	Part50 すずむしくん リ〜んりり〜んり〜ん	Ⅴ
4	2021. 10.26			2	Part38 いぬのおまわりさん	Ⅵ
5	2021.8.24			ウ保育園	2歳児	5
5	2021.9.14	エ保育園	2歳児	3	Part44 ふる一ついっばあ〜い (Photo) 2歳児用	Ⅰ
6	2021.9.28	オ保育園	2歳児	3	Part41 やさいのおなか	Ⅴ
7	2021.10.19			3	Part46 うずらちゃんのかくれんぼ	Ⅰ
8	2021.11.19			4	Part52 なに!!なに?な〜に?!	Ⅲ
9	2021.10.12	カ保育園	2歳児	2	Part42 みんなでおきがえ	Ⅴ
10	2021.11. 9			3	Part54 ばいきんをやっつけよう!!	Ⅴ
11	2020.11.10	キこども園	2歳児	4	Part40 やさいがいっぱい!! (Phot) 2歳児用	Ⅲ
12	2021.12.7	ク保育園	2歳児	2	Part55 なんだろな?	Ⅰ

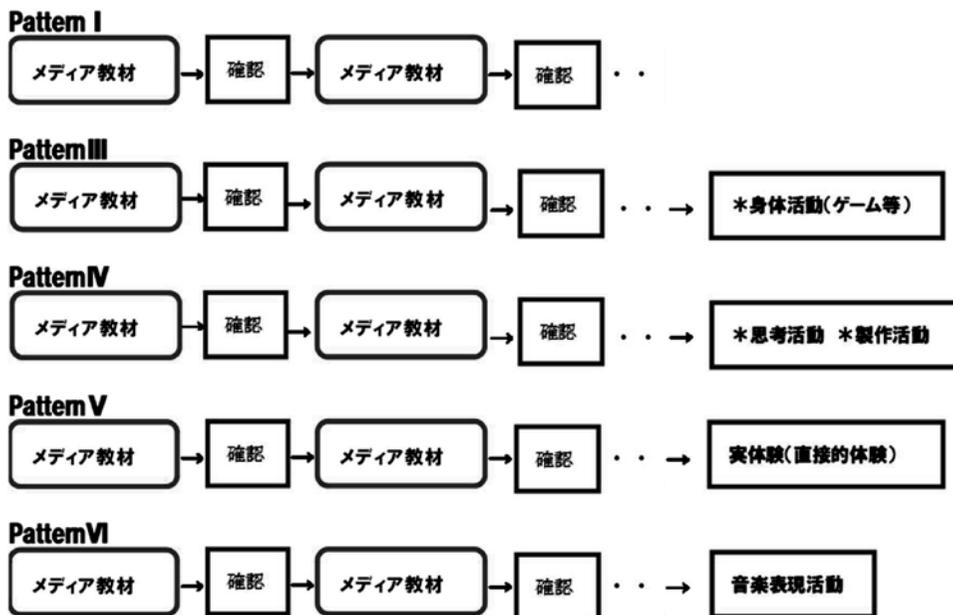


図 1 メディア教材の活用方法の分類

パターンⅠは、スクリーンに映し出される各々の画像を子どもたちがその都度確認するクイズ形式のものである。

パターンⅢは、パターンⅠの活動を通して、これに関連したイメージを活用し、身体的活動を楽しむものである。

パターンⅣは、パターンⅠで気付いたことやイメージしたことを活用し、楽しみながら製作活動や問題解決に活かしていこうとするものである。

パターンⅤは、パターンⅠの活動後に、実物を実際に見たり、触れたり、見に出かけたりするなどして子どもたちが再確認する。この時、確認だけではなく直接本物に関わることにより、新たな発見を楽しむものである。

パターンⅥは、パターンⅠの活動で得たイメージを活用して、その後の音楽活動を楽しむものである。

各パターンがとられた回数は、Ⅰが3回、Ⅳが3回、Ⅴが7回、Ⅵが1回であった。このうちⅣとⅤを組み合わせた実践が1回見られた。とくにパターンⅤが多く採用されていた。

以上の結果から、保育者によるメディア教材の活用は、全体的に5領域の特性を考慮しながら計画、実施されていたことがわかった。このことは3～5歳児を対象とした前回の研究と同様の傾向といえる。しかし、本研究では対象が2歳児であり、その発達過程の特性から、取り扱われる内容として基本的な生活習慣（手洗い・着替え）に関するものが新たに確認でき、また、活用方法についても、直接的体験をより重視する傾向が窺えた。

## 2. メディア教材の評価

メディア教材の評価については、担任保育士及び保育教諭、また園長・副園長を対象にアンケート調査を実施し、その結果を分析することによりメディア教材の効果について明らかにすることを試みた。

### (1) 保育者の評価

メディア教材に対する保育者の評価については、13件の研究保育を実施した30名（延べ38名）の保育者を対象にアンケート調査を実施し、37件の回答を得た。

メディア教材による保育の効果についての回答は、表2に示す通り、「とても効果がある」8.1%、「効果がある」70.3%で、約80%の保育者が肯定的な評価をしていた。

その評価の理由について分析したものを表3に示すが、理由は3つに大別できる。1つは、子どもの反応の良さである。子どもたちが興味、意欲をもって、また楽しみながら参加できたことや次の活動への繋がりとして効果があったことが窺えた。2つ目は、メディア教材の保育教

表2 メディア教材による保育の効果

区 分	人数（人）	割合（％）
①とても効果がある	3	8.1
②効果がある	26	70.3
③どちらでもない	8	21.6
④あまり効果はない	0	0.0
⑤まったく効果はない	0	0.0
合 計	37	100.0

表 3 メディア教材による保育の効果 (GTA)

カテゴリー	下位カテゴリー	コード数	コード%	初期コード
① とても効果がある		7	12.3	
	子どもの姿	4	7.0	興味深さ 2      良い反応 1      集中 1
	保育の展開	2	3.5	一緒に考える 1      事後の保育への繋がり 1
	メディア教材の内容	1	1.8	写真 1
② 効果がある		43	75.4	
	子どもの姿	25	43.9	興味深さ 10      楽しみながら 4      意欲 3      事後の保育への繋がり 2 積極的な発言 2      見通し 1      真剣 1      新鮮 1      理解しやすい 1
	メディア教材の内容	12	21.1	分かりやすい 9      事後の保育への繋がり 1      実際の画像 1 子どもたちの興味・関心を惹きつける効果 1
	保育の展開	6	10.5	子どもの反応に対応した保育 2      保育者のペース 1      会話が弾む 1 事後の保育への繋がり 1      活用方法により良い効果 1
③ どちらでもない		7	12.3	
	子どもの姿	4	7.0	興味 2      楽しさ 2
	メディア教材の内容	2	3.5	ねらいによっては効果 2
	保育の展開	1	1.8	保育者自身得意ではない 1
④ あまり効果はない		0	0.0	
⑤ まったく効果はない		0	0.0	
総 計		57	100.0	

材の内容としての意義である。大きな映像、実物の画像（写真）を用いることで、子どもたちによりわかりやすく伝えられることである。さらに3つ目は、保育の展開における効果についてである。保育者からは、子どもの反応に対応しながら保育が展開できる点、その後の保育への繋がり易さなどの意見が見られた。しかし、約 20%の保育者からは「どちらでもない」という回答を得ており、その理由として、「ねらい」によっては効果がある、や「保育者自身得意ではない」といったことが挙げられている。

また、子どもの反応については、表 4 に示す通り、「とても良い」18.9%、「良い」48.6%で、約 70%の保育者から肯定的な評価を得た。

その評価の理由についての分析結果を表 5 に示す。まずメディア教材に対する子どもたちのよい反応が多く挙げられる。具体的にはとくに興味をもてた、集中できた、楽しんでた点が多く挙げられていた。他にも、発言など積極的に参加する姿も挙げられていた。しかし、「普段と変わらない」と回答した保育者が約 30%を占める結果となった。その理由として

表 4 メディア教材に対する子どもの反応

区 分	人数 (人)	割合 (%)
①とても良い	7	18.9
②良い	18	48.6
③普段と変わらない	11	29.7
④あまりよくなかった	0	0.0
⑤よくない	0	0.0
無記入	1	2.7
合 計	37	100.0

表5 メディア教材に対する子どもの反応 (GTA)

カテゴリー	下位カテゴリー	コード数	コード%	初期コード
① とても良い		13	24.1	
	子どもの姿	9	16.7	子どもの反応3 興味2 良い反応2 楽しさ2
	メディア教材の内容	3	5.6	大きな画面1 写真1 伝わりやすさ1
	保育の展開	1	1.9	保育者自身の勉強1
② 良い		36	66.7	
	子どもの姿	26	48.1	集中7 楽しさ6 興味5 良い反応3 多くの発言2 笑顔1 理解の深まり1 飛び跳ねる1
	メディア教材の内容	8	14.8	大きな画面3 分かり易さ2 写真1 興味のある題材1 特別感1
	保育の展開	2	3.7	共感1 保育内容的に良い1
③ 普段と変わらない		5	9.3	
	子どもの姿	5	9.3	良い反応2 楽しさ1 普段からYouTubeなどで、刺激的な動画や音に慣れている子は、興味なさそうだった1 集中力のない飽きやすい子どもが多いので、ずっとは見てられない1 日頃絵本の読み聞かせなどを楽しんでいる子どもは、とてもいい反応1
④ あまり良くなかった		0	0.0	
⑤ 良くない		0	0.0	
総計		54	100.0	

は、普段から Youtube 等の刺激的な動画に慣れている子どもは興味なさそうであったこと、集中力のない子どもは見続けられなかったことが挙げられていた。

今後メディア教材を保育で活用したいと思うかどうかの結果を表6、またその理由についての分析結果を表7に示す。

活用したいと「思う」と回答した保育者は45.9%で半数弱であった。その理由としては、保育の展開における効果、子どもの反応など、先に見たメディア教材の効果の理由として挙げられていた意見と同様のことが挙げられていた。

一方、活用したいかどうかについて、「わからない」が24.1%、「あまり思わない」が11.1%あり、「わからない」の理由としては、活用の仕方によるとの意見が多く見られた。また「あまり思わない」の理由としては、3歳未満児の保育におけるメディア教材活用は、あまり推奨したくない、難しい、必要がない、対面の方が温かみがある、といった意見が挙げられていた。このことから、2歳児を対象とした保育におけるメディア教材の活用については、否定的な意識、考えをもつ保育者も少なくないことがわかった。その他、教材作成、準備が難しいといった情報機器の扱いについて苦手、苦手意識があるとの理由も挙げられており、これは前回の3～5歳児の場合と同じであった。

以上、保育者によるメディア教材に対する評価から、メディア教材の効果は確認できたものの、

表6 メディア教材の今後の活用への意向

区分	人数(人)	割合(%)
①是非思う	0	0.0
②思う	17	45.9
③わからない	13	24.1
④あまり思わない	0	11.1
⑤まったく思わない	0	0.0
無記入	1	1.9
合計	37	100.0

表 7 メディア教材の今後の活用についての意向の理由 (GTA)

カテゴリー	下位カテゴリー	コード数	コード%	初期コード
① 是非思う		0	0.0	
② 思う		17	39.5	
	保育の展開	8	18.6	保育の幅の広がり 3 より子どもに分かり易く、想像しやすい保育 2 適した教材の活用は効果的 2 多くの活かせるところ 1
	子どもの姿	4	9.3	楽しさ 1 興味深さ 1 喜び 1 通常の保育とはまた違った笑顔 1
	メディア教材の内容	4	9.3	特別感 1 大きな画面 1 皆で見る 1 映像機材の準備が大変 1
	保育の環境	1	2.3	設備 1
③ わからない		20	46.5	
	保育の展開	10	23.3	人と人との関わりを重視した保育 4 メディア教材の活用の仕方によって 3 「ならい」に沿った教材の用意しやすさ 1 子どもの姿による活用方法の変化 1 保育に活用するためのイメージがすくない 1
	保育者の意識	4	9.3	準備、作成など難しい 3 苦手意識 1
	子どもの姿	3	7.0	良い反応 1 興味 1 楽しさ 1
	メディア教材の内容	2	4.7	使いやすさ 1 準備をする時間 1
	保育の環境	1	2.3	部屋の環境 1
④ あまり思わない		6	14.0	
	保育の展開	4	9.3	乳児に対しては、あまりメディア教材に頼ることを推奨したくない 1 乳児クラスでは難しい 1 対面の方が温かみがある 1 乳児には必要ない 1
	保育者の意識	2	4.7	準備、作成など難しい 2
⑤ まったく思わない		0	0.0	
総 計		43	100.0	

3歳未満児の保育でメディア教材を活用することに対しては、否定的な意見、抵抗感をもつ保育者が少なくないこともわかった。概して、3～5歳児の場合と比較するとメディア教材に対する評価は低い傾向が窺えた。2歳児の場合、保育者は日常の子どもの姿から子どもの興味・関心を知り、これに重点を置いたメディア教材の内容であることが必要不可欠であると言えよう。

(2) 第三者 (園長・副園長等) の評価

メディア教材を活用した保育に対する第三者の評価については、研究保育を参観した園長、副園長、主任保育士等9名にアンケート調査を実施し、延べ14名の回答を得た。その結果から分析した。

メディア教材による保育の展開については、表8より、「とても効果がある」21.4%、「効果がある」78.6%で、全員が肯定的な評価を示した。その理由としては、表9より、まず1つ目に、子どもの興味・関心や自分でやってみようなど活動に対する意欲など、子どもの反応について効果の理由として挙げているものが多かった。2つ目に、大きな画像、視覚

表 8 メディア教材による保育の効果【第三者】

区 分	人数 (人)	割合 (%)
①とても効果がある	3	21.4
②効果がある	11	78.6
③どちらでもない	0	0.0
④あまり効果はない	0	0.0
⑤まったく効果はない	0	0.0
合 計	14	100.0

表9 メディア教材による保育の効果【第三者】(GTA)

カテゴリー	下位カテゴリー	コード数	コード%	初期コード
① とても効果がある		8	22.9	
	子どもの姿	5	14.3	興味2 イメージが膨らみ1 集団で見る事により、他児からの刺激1 楽しさ1
	メディア教材の内容	2	5.7	大きな映像1 視覚情報1
	保育の展開	1	2.9	集団で同じ映像を見ての共通の保育1
② 効果がある		27	77.1	
	子どもの姿	12	34.3	興味4 自分でやってみようという意欲3 楽しさ1 メディア教材の強い印象1 集中1 弾む会話1 子ども自身が実感1
	メディア教材の内容	9	25.7	視覚情報3 大きな画像3 分かり易さ1 クラス全員で同じ画像を共有1 インターネット活用で、珍しい画像を保育の中に活用1
	保育の展開	6	17.1	メディア教材活用後の実体験が効果的3 メディア教材活用後の保育の展開のしやすさ1 メディア教材活用により活動に幅1 保育士が絵本を持つ必要が無い1
③ どちらでもない		0	0.0	
④ あまり効果はない		0	0.0	
⑤ まったく効果はない		0	0.0	
総計		35	100.0	

情報の提示による分かりやすさや全員で共有できる点など、メディア教材の内容としての意義、そして3つ目に、メディア教材活用後の実体験への繋げ易さなど、メディア教材活用後の保育の展開のしやすさなど、保育の展開における効果について挙げられている。これらの結果は、先の保育者の評価と同様の傾向であった。

また、子どもの反応についても、表10の通り、「とても良い」28.6%、「良い」

64.3%で、90%以上が肯定的な評価であったといえる。その理由としては、表11より、メディア教材の大きな画像を通して、楽しむ、興味・関心を持つ、集中している姿などが挙げられており、子どもの反応に関する評価も保育者と同じ傾向であった。

次に、今後メディア教材を保育で活用したいと思うかどうかについては、表12より「是非思う」14.3%、「思う」78.6%で、約90%が今後の活用に前向きな意向を示している。その理由としては、先のメディア教材の効果の理由と同様のものであり、保育者の回答とも同じような内容であった。

第三者におけるメディア教材の評価については、概して肯定的な評価であることを確認することができた。これは3～5歳児の結果と同様の傾向であった。

以上のことから、保育者と第三者とを比較すると、その評価にみられる差、すなわち実際に保育に関わる保育者の評価が第三者よりも低い結果であることが確認された。

表10 メディア教材に対する子どもの反応【第三者】

区分	人数(人)	割合(%)
①とても良い	4	28.6
②良い	9	64.3
③普段と変わらない	1	7.1
④あまりよくなかった	0	0.0
⑤よくない	0	0.0
合計	14	100.0

表11 メディア教材に対する子どもの反応【第三者】(GTA)

カテゴリー	下位カテゴリー	コード数	コード%	初期コード
① とても良い		8	32.0	
	子どもの姿	5	20.0	興味 2    良い反応 2    発言 1
	メディア教材の内容	2	8.0	視覚情報 1    日常生活の中にあるメディアは保育の大切に行っている1つ1
	保育の展開	1	4.0	メディア教材活用後の実体験が効果的 1
② 良い		17	68.0	
	メディア教材の内容	9	36.0	大きな画像 4    明確 2    印象的 2    新鮮 1
	子どもの姿	7	28.0	集中 3    楽しさ 2    意欲 2
	保育の展開	1	4.0	日常の保育とは違う雰囲気 1
③ 普段と変わらない		0	0.0	
④ あまり良くなかった		0	0.0	
⑤ 良くない		0	0.0	
総 計		25	100.0	

表12 メディア教材の今後の活用への意向【第三者】

区 分	人数 (人)	割合 (%)
①是非思う	2	14.3
②思う	11	78.6
③わからない	1	7.1
④あまり思わない	0	0.0
⑤全く思わない	0	0.0
合 計	37	100.0

### 3. メディア教材の課題

メディア教材の課題については、保育者及び第三者のアンケート回答のうち、質問項目「メディア教材を活用した保育の展開に必要なもの」の記述回答（この分析結果は表 13、表 14 参照）から、メディア教材の課題に関わる内容と捉えられるものを抽出した上で、分析した。その分析結果を表 15 に示す。

以上の分析結果より、メディア教材及びその活用に向けての課題として次のように整理した。

1つ目に、メディア教材活用のための保育環境の整備である。メディア教材活用のためには、機器、機材や場所、また教材作成に要する時間等、物理的な環境が必要であり、これらの整備は個々の保育者の意識や努力だけでは実現困難であり、園等組織としての対応が求められる課題といえよう。

2つ目に、保育者自身の情報機器に対する意識や知識・技術の獲得、向上である。今回のアンケート調査でも、保育者から、メディア教材活用に必要なものとしてパソコンの知識や技術が多く挙げられており、苦手あるいは苦手意識のある保育者が多いことが窺えた。個々の保育者の情報機器に

表13 メディア教材を活用した保育の展開に必要なもの【保育者】(GTA)

カテゴリー	下位カテゴリー	コード数	コード%	初期コード
		15	39.5	
メディア教材	メディア教材による 保育の展開	10	26.3	メディア教材に関するテキストや専用の教材 4      メディア教材の提供方法 3 メディア教材による保育事例 2      実体験 1
	メディア教材の内容	5	13.2	音が出たり、写真が動いたりなど 3      メディア教材の活用等の研修 1 子どもたちが興味を惹かれるようなレイアウトの方法 1
保育		12	31.6	
	保育の環境	12	31.6	メディア教材活用のために必要な環境（機器・部屋） 9 メディア教材に関する援助者 2      時間的余裕 1
保育者		11	28.9	
	保育者の意識	11	28.9	パソコンの知識や技術 6      子どもたちの興味のあるものを知ること 2 発達に合わせたテーマ 1      ねらいを定め計画 1 子ども一人ひとりが集中できる環境構成 1
総計		38	100.0	

表14 メディア教材を活用した保育の展開に必要なもの【第三者】(GTA)

カテゴリー	下位カテゴリー	コード数	コード%	初期コード
		17	70.8	
保育者	保育者の意識	17	70.8	パソコンの知識や技術 9      メディア教材作成時間の確保 5 アイデア「面白い」を提供する気持ち 1      メディアに対する抵抗感の削減 1 メディア教材に適したテーマ 1
		7	29.2	
保育	保育の展開	4	16.7	「ねらい」につながるメディア教材の活用 2      メディア教材を活用した保育実践 1 子どもたちの反応によるその後の保育展開 1
	保育の環境	3	12.5	機材の充実 2      環境の整備 1
総計		24	100.0	

関する知識、技術の獲得、向上や、苦手意識、抵抗感の解消、軽減のための方策が求められる。

3つ目に、情報機器を扱う知識・技術だけでなく、保育におけるメディア教材の活用方法を知る、学ぶための方法や機会を保育者が得ることである。アンケート回答で、保育者からは、メディア教材活用に関するテキスト、事例、研修など、保育におけるメディア教材活用の助けになる物的、人的環境や機会などが多く挙げられていた。担任保育者として日々実際に保育する立場であるからこそ、メディア教材を活用する上でのより具体的な課題や要望が思い付くのではないかと考える。

表15 メディア教材及びその活用に向けた課題 (GTA)

カテゴリー	下位カテゴリー	コード数	コード%	初期コード
		18	38.3	
保育環境	場所や機器	13	27.7	メディア教材活用のために必要な環境（機器・部屋） 9      機材の充実 2 環境の整備 1      時間的余裕 1
	時間	5	10.6	メディア教材作成時間の確保 5
		16	34.0	
保育者	パソコン	15	31.9	パソコンの知識や技術 15
	メディアに対する意識	1	2.1	メディアに対する抵抗感の削減 1
		13	27.7	
メディア教材	テキストや教材	10	21.3	メディア教材に関するテキストや専用の教材 4      メディア教材の提供方法 3 メディア教材による保育事例 2      子どもたちが興味を惹かれるようなレイアウトの方法 1
	援助者	2	4.3	メディア教材に関する援助者 2
	研修	1	2.1	メディア教材の活用等の研修 1
総計		47	100.0	

#### Ⅳ まとめ

以上の研究結果及び考察に基づき改めて総合考察し、2歳児を対象とした保育におけるメディア教材の効果及び課題について得られた知見を整理すると以下の通りである。

メディア教材の活用方法については、メディア教材のみの活動の展開、思考活動、音楽表現活動等に繋げる保育の展開、実体験と結び付けた保育の展開など、5領域の特性や実体験との関連を考慮した多様な活用方法があることがわかった。3～5歳児を対象とした場合と比べると、2歳児の発達過程の特性から、基本的生活習慣に関わる内容が用いられる傾向や実体験との繋がりを重視する傾向が確認された。

保育におけるメディア教材活用の効果としては、子どもにとって、興味・関心・意欲、楽しさ等、保育で子どもに育まれることが重視される様々な資質に繋がる体験が得られる点、大きな画像や写真等を用いることで子どもにわかりやすく伝えることができるといったメディア教材の内容としての意義、子どもの反応や映像に合わせた柔軟な展開や次の活動への繋がりある展開をし易くする等、保育を展開する上での有効性が確認された。これらのことは3～5歳児の場合も同じであったが、2歳児の場合とはとくに、保育者が日常の子どもの姿から子どもの興味・関心を知り、これを十分考慮しメディア教材の内容を検討し、用いることが必要不可欠であると思われた。

メディア教材及びその活用に向けての課題としては、メディア教材の活用を可能にする環境の整備、保育者自身の情報機器、メディア教材活用に関する知識・技術の獲得や向上があげられる。このことも3～5歳児の場合と同様の結果となった。保育者自身の知識・技術の獲得、向上については、保育者養成機関としても保育現場と連携しながら、直接的な支援や学生の教育・指導という形での間接的な支援も課題となる。

また、今回の2歳児を対象とした研究においては、メディア教材を活用した際、子どもの実体験、生活体験と結び付いていないケースでは、子どもが興味を示さない、示しにくい様子が見られた一方、とくに手洗い等の基本的生活習慣に関する実体験との繋がりをもたせてメディア教材の活用をした活動において、多くの子どもたちが興味を示し意欲的に参加する姿が見られた。このことから2歳児の発達の特性、実際の子どもの姿を十分考慮し、活用することが必要不可欠であるといえる。

#### 参考文献

- 1) 鈴木恒一・野崎真琴・須田昂宏「幼児のための身近なメディア情報の活用方法とその評価・課題について Vol.1—3, 4, 5歳児の保育を通して—」『名古屋柳城短期大学研究紀要』No.43 2022
- 2) 文部科学省 「教育課程コアカリキュラム」 2017
- 3) 厚生労働省 「保育所保育指針<平成 29 年告示>」 2017
- 4) 堀田博史著 「幼児教育におけるメディア活用の現状とフューチャースクールにおける小学校現場での ICT 利活用」『情報処理』Vol.53 No.3 2012

#### 付記

本研究は、2021 年度一般社団法人全国保育士養成協議会ブロック研究助成を受けたものである。また、本論文は全国保育士養成協議会令和 4 年度全国保育士養成セミナーにおいて発表したものを、加筆修正したものである。

## How to Use Media Information for Young Children and Its Evaluation and Issues Vol.2: Through the Care of 2-Year-Olds

Nozaki, Makoto\* Suzuki, Tsunekazu\*\*

筆者らは、乳幼児を対象とした保育においては、子どもにとってあくまでも直接体験が最重要であるという前提のもと、情報化の流れは避けられない時代状況下で、身近なメディア情報を活用した保育教材（以下 メディア教材）が保育において有効であるかどうか、その有効性の範囲を探るため、保育における身近なメディア情報の活用方法とその保育における活用の効果と課題について、本研究に先立って、3～5歳児の保育を対象とし検証を試みた。その結果、保育におけるメディア教材の活用による様々な効果、それと同時にメディア教材の活用における課題が明らかになった。これらの研究成果を踏まえ、本研究では、対象児年齢を2歳児に繰り下げ、2歳児の保育におけるメディア教材の活用方法とその活用の効果など評価について、またメディア教材及びその活用における課題について、実際の保育現場での子ども、保育者の姿を通して検証し、明らかにすることを目的とした。

メディア教材の活用方法については、保育者により展開の仕方は様々であるが、領域の特性や幼児の実体験との関連を考慮しながら計画、実施していることが把握された。このことは3～5歳児でも同様であったが、対象が2歳児でありその発達の特性から、基本的な生活習慣に関する内容や直接的体験をより重視する傾向が窺えた。

メディア教材の効果については、①保育の多様な展開が可能となる点、②幼児期に育まれることが望まれる様々な資質につながる体験が得られる点、③保育を展開する上での有効性、④メディア教材そのものの保育教材の内容としての意義が挙げられた。これらは3～5歳児の場合も同じであったが、3歳未満児に対するメディア教材の活用については、否定的な意識、考えを持つ保育者も少なくないことがわかった。

メディア教材の課題としては、メディア教材の活用を可能にする環境の整備、保育者自身の情報機器、メディア教材活用に関する知識・技術の獲得や向上があげられる。このことも3～5歳児の場合と同様の結果となった。保育者自身の知識・技術の獲得、向上については、保育者養成機関としても保育現場と連携しながら、直接的な支援や学生の教育・指導という形での間接的な支援も課題となる。

キーワード：メディア教材, 活用方法, 効果, 課題

---

\*Nagoya Ryujo Junior College

\*\*Nagoya Bunka Gakuen Nursery and Kindergarten Teachers' College